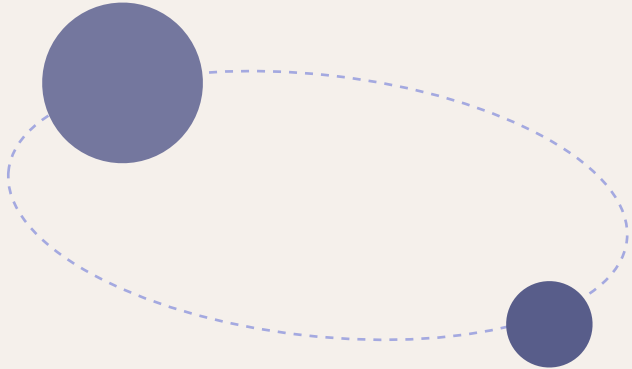
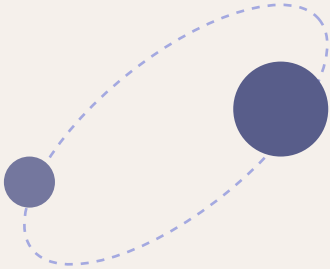




ファン・ティ・チャー・ニー



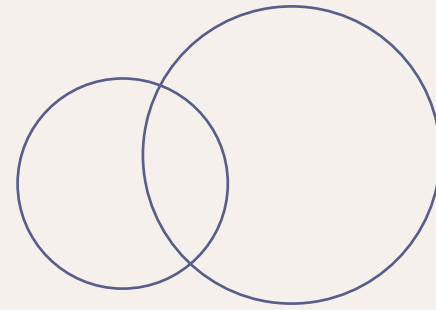
化学の先生を辞めて、再び日本語の世界に再び咲いたチャー・ニーさん。かつて、自身の拙い日本語力を痛感していた彼女はその後、組合通訳として日本を再訪し、現在はホーチミン市に拠点を置くJVC日本語センターで教育担当を務めています。



“

日本語の勉強を初めてから日本へ行くまでの間、日本語はベトナムで3ヵ月くらい勉強しただけです。日本では、空港のセキュリティチェックにしても、周りの人が皆日本語を話すことに圧倒されました。何を言っているのか、さっぱり理解できなくて。入国カードの記入や機内預け荷物を受け取る際も、言われたことはほとんどわからず、前にベトナムで読んだマニュアルに従ったにすぎません。

成田空港から日暮里駅までスカイライナーに乗り、生まれて初めて電車というものに乗りました。車窓からみた光景は別世界でした。街並みや人々の歩き方、線路に至るまで、すべてがベトナムとは別物。私が初めて目にしたのは、清潔そのもの。それは線路脇であっても同じでした。



「みんなの日本語」第14課の勉強を終えたばかりの2016年7月。
チャー・ニーさんは日本留学の旅を始めたのでした。



日本に来て2日目。チャーニーさんは友人に連れられて住民登録へ。記入用紙は厄介にも漢字で溢れ、頭が痛く…

“

用紙に記入したものの、間違いだらけ。友人といっても、私より3ヵ月早く日本に来ただけですし、無理はありません。午後いっぱいかけて、窓口の年輩の女性が辛抱強く何度も直してくれたおかげで、何とか受理してもらうことができました。国が行う行政サービスを受けたのに、私はお客様として扱ってもらえた感覚でした。役所の職員がきちんと対応してくれて、関連するその他の手続きを行うのを手伝ってくれました。



アルバイト初日

“

家からアルバイト先までは所要20分ほど。1時間半も前に家を出たというのに道に迷った挙句、遅刻してしまいました。時間に間に合いそうになくて、取り出したのは携帯電話。でも、私の拙い語彙のせいで事情を理解してもらえませんでした。初日なら時間に遅れないように、余裕をもって出勤すべきだと叱られました。1時間半前に家を出る準備をしたと弁明したかったのに、それは言えずじまい。日本で暮らし、働く中で、仕事の連絡に使われる日本語を学ぶ必要性を強く感じました。私は、時間に遅れそうになって店長に電話をかけ、遅れる旨と何分遅れるのかを伝えるのが精一杯で、遅刻の理由を伝えることはできませんでした。

後になって、組合で働くことになった時には、約束の時間に何時に着く、あるいはどのくらい遅れるのかを前もって計算するという、トラブルを回避するための仕事上の鉄則を学びました。万が一にも遅れてしまった場合、私は相手の共感を得る術を心得ているつもりです。

“

日本に来て最初の6ヵ月ほどきつく、多忙だった時期はありません。回転寿司で使われる語彙の数々を学び、ネタの名前を覚えながら、仕事の段取りをできるだけ要領よく行いました。当時は、1年9ヵ月間の留学を終えてベトナムに帰りたい一心でした。



ことばの違いの 壁を越えて

“

日本語が上達し、少しずつ慣れてきてからは、以前に比べて日本の暮らしを満喫している自分がいました。平日は勉強や仕事に明け暮れ、休日は友人と外出したり、1、2ヵ月に一度は公園やどこかへ行きました。その土地土地についてもっと知りたくて、ご当地グルメを味わうのも楽しみでした。

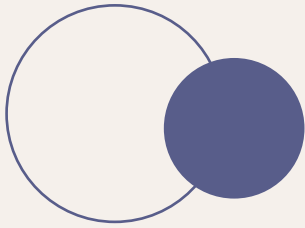
電車によく乗り間違えたりもしました。日本語が下手だった時は、あえて人に尋ねることはしませんでした。慣れるに従って聞くようにしました。駅のホームへと案内してくれたり、電車に乗る時間を教えてくれる親切な人たちが少なくありませんでした。

ベトナムへ帰国後、チャー・ニーさんはベトナムの送り出し機関でしばらく働いた後、組合通訳として再び日本を訪れました。現在は、ホーチミン市に拠点を置く日本語センターで活躍中です。

“

日本でもう一度行きたい場所があるとすれば、湯布院のある大分県。一度通りかかって、とても気に入りました。陽気な人々や温暖な空気、温泉をはじめ、緑一色の見渡す限りの広大な草原。それは、仕事で通りかかった時の出来事でした。ベトナムに帰国する前にも1週間近く大分巡りをしました。九州人気質を持つ土地の人々は素朴で、外国人に対しても、とてもフレンドリーに接してくれました。

ベトナムへ帰った後、
再び仕事で日本へ





チャー・ニーさんへのインタビューでは、道に迷った挙句、アルバイト初日に遅刻してしまったご本人の実体験が述べられています。彼女は時間に間に合わないと思って、アルバイト先の店長へ電話で知らせるといった確な行動をとりました。

なぜなら、

「もし遅れる場合は、それが 5 分や10 分であっても、早目に相手に連絡をするのがマナーです。「5 分、10 分だけなのに？」と不思議に思う人もいるかもしれませんが、相手を心配させたり、イライラさせたりしないというのがポイントです。」

日本人が「遅刻」をどのように捉えているかについて、さらに詳しく知りたい方は『いろどり』初級1・第7課の「日本の生活Tips」をご覧ください。



<https://jpf.org.vn/irodori>